

表 31 青森圏域脳卒中地域連携パス作成検討委員会委員構成機関

関係機関・団体	所属名
医療機関	青森市民病院
	青森県立中央病院
	青森慈恵会病院
	あおり協立病院
	外ヶ浜中央病院
青森市医師会	森山内科クリニック
	南内科循環器科医院
東郡医師会	蓬田診療所
青森市歯科医師会	小田島歯科医院
青森県理学療法士会青森支部	身体障害者更正施設津麦園
橋渡し職員ネットワーク組織	青森市民病院
老人保健施設協会	老人保健施設すずかけの里
青森地域介護支援専門員連絡協議会	じけいかい居宅介護支援事業所
訪問看護ステーション	協立訪問看護ステーション
行政機関代表	平内町保健福祉課地域包括支援センター
事務局	青森市民病院
	青森県健康福祉政策課
	東青地域県民局地域健康福祉部保健総室(東地方保健所)

資料：青森圏域脳卒中地域連携パス作成検討委員会資料（平成 19 年 11 月 29 日開催分）より作成

本パス導入後は、更なる改善を図るため引き続き検討会を開催している。その際には検討会委員に加え、実際にパスの受け渡しを行う各病院の担当者も参加し、現場から上がっている今後改善してほしい点等の意見を発表し、パスの改良に努めている。

これまでも医師同士は医師会などで顔を合わせる機会があったが、他機関の医師以外の職員と顔を合わせることがなかった点を考えると、県主導により行うことで、医療機関等に会議に参加してもらいやすいという意義は大きい。

当パス策定にあたっては、先の大腿骨頸部骨折のパス作成の経緯もあり、慈恵会病院も民間中小病院ながらコアメンバーとなっている。

当院はこれら 2 つの地域連携パス作成および運営において、病院単体としては中小病院ながら一つは発起人になり、もう一つはコアメンバーとなることで、地域連携ネットワークに組み入ることに成功したといえよう。

5) パス導入のメリット・デメリット

当院の院長は、地域連携のメリットとして紹介患者数の増加を挙げている。慈恵会病院における中核病院からの紹介患者数は、平成 14 年度の 258 人から平成 18 年度の 478 人へと倍増しており、なかでも平成 17 年から 18 年度間は 349 人から 478 人へと約 130 人も増加した。

大腿骨パス導入により回復期リハビリ患者の紹介件数が増えたのが大きな要因である。また、脳卒中患者についても、慈恵会病院の脳卒中パス参加を契機として、慈恵会病院への紹介件数が増えた。

さらに、これらのパスに参加していることで、急性期病院との信頼関係が芽生え、